

## 令和4年度ふるさと再生会議概要

### 1 会議の名称

石岡市ふるさと再生会議

### 2 開催日時

令和4年12月26日(月) 午後1時30分から午後3時30分

### 3 開催場所

本庁舎 201・202 会議室

### 4 出席者氏名

別紙「ふるさと再生会議出席者」のとおり

### 5 議題

- (1) まち・ひと・しごと創生について(資料1)
- (2) まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略の進捗状況について(資料2)
- (3) 石岡市の人口動態の推移(資料3)
- (4) 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告について(資料4)
- (5) 令和3年度 企業版ふるさと納税の実績について(資料5)

### 6 会議内容

#### 【次第2】 市長あいさつ

市長  
(冒頭あいさつ) 委員の皆様においては、年末のお忙しい中にも関わらず、お集まりいただきありがとうございます。うございます。

本市では、少子高齢化への的確な対応と住みやすい環境を整えることで、活力あるまちづくりを目指すため、人口ビジョンと総合戦略を策定し、施策展開を図っている。

人口ビジョンでは、2060年に6万人の人口を維持するという高い目標を掲げており、これを実現するために、総合戦略において、それぞれの施策に重要業績評価指数KPIを設定し、進行管理を行っている。

本日の会議では、主に昨年度の国の地方創生推進交付金を活用した取組や、総合戦略の進捗等について説明させていただく。

昨年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響によってイレギュラーなことが多い1年であった。事業を実施するかどうかの判断から始まり、実施する場合には感染対策、実施しない場合には代替案など、例年以上に多くの判断や配慮が必要であった。

この会議を通じて、昨年1年間の取り組みについて振り返っていただくとともに、委員の皆様からの忌憚のないご意見を頂戴し、今後の事業展開に活かしてまいります。

活力あるまちづくりのため、積極的な意見や提案をお願いして、私の挨拶とする。

## 【次第3】 会長・副会長の選任

- 議長(市長) 会長・副会長が決まるまでの間、議長を務めさせていただきます。  
会長・副会長の選任について、石岡市ふるさと再生会議要綱第5条の規定により、委員の互選により選出することとなっている。どのような方法で決めたらよいか。
- (議長一任)
- 議長(市長) ただ今、議長一任のご発言が出された。それでは、事務局で案はあるか。
- 事務局 事務局案として、会長には草間吉夫委員を、副会長には馬渡剛委員をご提案する。
- 議長(市長) ただ今、事務局より、会長に草間吉夫委員、副会長に馬渡剛委員との提案があった。委員の皆様いかがか。
- (異議なし)
- 議長(市長) それでは、会長を草間吉夫委員、副会長を馬渡剛委員にお願いしたい。

## 各委員のあいさつ

- 草間会長 久しぶりの開催になった。会長に選任いただきありがとうございます。石岡市の発展のために皆さんの英知を集結して、前に進めていきたいのでご協力をお願いします。
- 市長から 2060 年に人口 60,000 人維持を目指すとの発言があった。厳しい数字であるが、山は高いほど登る価値がある。市民総出でやっていく必要があるだろう。
- 地方創生の最初の政策統括官の山崎さんと親しくしている。先日もリトアニア大使に任命されたので訪問した。彼が言っているのは、地方創生は簡単ではないということである。人口減少が続いており、今年の出生者数は 70 万人台に割り込む。少子化が国の推計よりもかなり早く進んでいる。
- 何とか打開していくために持続可能なまちづくりをしていくということになる。石岡は歴史があり、八郷はまた違ったコンセプトをもっている。様々な地域資源があるまちなので、皆で力を合わせて盛り上げていくことができると思う。委員の皆さんにもご尽力いただきたい。

## 【議題1】 まち・ひと・しごと創生について（資料1）

会長 地方公共団体において一番大切な計画が総合計画。地方創生は地方の疲弊したものを何とかアップさせようというものであり、安倍政権でできた。デジタル田園都市国家構想は岸田政権から始まり、行政としては対応が必要である。今後、石岡市では総合計画にリンクさせながら地方創生計画をきちっとやっていく。全体として概略について意見はあるか。

（意見なし）

## 【議題2】 まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略の進捗状況について（資料2）

## 【基本目標1】 市の強みを活かした安定した雇用の創出

委員 企業誘致の件について。柏原工業団地の企業数は 45 社であったが、令和3年度は 44 社になっている。柏原工業団地内の敷地は空いていないと聞いており、企業数を増やすことは難しいことで、45 社を維持していくという意味での KPI と理解する。

撤退した1社の理由はなにか。柏原工業団地内に土地を探している企業は非常に多い。工業団地内の企業も手狭になり、新たに用地を探してくれという話になると、他市の工業団地や、広げるにあたり規制があるなど、なかなか進まない。お考えを聞かせていただきたい。

事務局 1社は倒産している。原因までは不明。柏原工業団地内はいっぱいになっており、新たな誘致は厳しくなっている。産業プロモーション課で企業誘致について推進しており、現在、アンケートを取るなど対応をしている。

会長 業態についてはわかるか。

委員 廃棄物関連の企業。

委員 新規就農者について。累計 23 人になっているが、都内からの移住者か、農業の後継者として地方から来ているものか。また、業態はなにか。

事務局 県外から石岡市に来ている新規就農者として、ご夫婦が朝日里山学校で研修していく事業がある。農協でも同様のものがある。こういった事業をやっていることを知って移住されている方がいる。

作物については、有機野菜が多い。少量多品目で収益を出せるものとして有機野菜。

やさと農協の有機部会は、これまで 10 年以上経営体制を進めている経緯もある。そういった諸先輩からも技術指導を得て、有機野菜を作ってきた方々とつながりができている。

米作りについては、初期投資がだいぶかかることもあり、今のところ新規就農者としてはいない。

## 【基本目標2】 市の魅力を活かした新しい人の流れをつくる

委員 通勤通学に対する支援について。自分の子も県外の大学に通う際に使ったが、たまたま市報で見かけて、市役所に足を運んで利用した。家庭的にも大変助かったが、実際の利用者はどの程度いるか。どの程度この制度を知っているか。知らない方も多い。

事務局 若年層の転出抑制を目的としている。推移を申し上げますと、令和元年度は延べ398人が利用。交付額は 16,276,000 円。令和 2 年度はコロナがあったが、147 名が利用、交付額は 3,781,000 円。令和3年度は 290 名、交付額は 7,947,000 円。  
今年度は、コロナ前の実績に戻りつつあり、当初予算の予定を消化する見込み。

会長 このような事業を周知すると、だいたい知らないという市民が出てくる。実際に市報で周知しているが、そのほかどのようにしているか。

事務局 広報紙の他、HP、SNS、駅利用者が関心を持てるように駅の窓口で掲示等している。ご指摘のように、PR について、どのような方法がよいか、積極的にお知らせしていきたいと考えている。

委員 通勤通学について、子の通学手段はすごく考えるものである。  
市内の高校生などに向けて、進学の時期に合わせて、学校に周知できたらよいのではないか。

委員 令和4年度に石岡のおまつりが開催されていると思う。何人くらい集客があったか。フラワーパークもコロナ禍により影響を受けていると思うが、現時点で令和4年度、何人くらい来ているか。

事務局 令和 4 年度の数値については、確認後報告する。

会長 来客数等については、コロナによるものが大きい。状況が改善されないと集客増加は

難しいことをご理解いただきたい。

【基本目標3】 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる

- 委員 石岡市内には産科がない。石岡市のみの問題ではなく、近隣の市町村の産科医が辞めてしまうなど。  
土浦協同病院が、産科婦人科の規模が大きい施設と思うが、午前中は予約でいっぱいになり、一番忙しい部署と聞いている。なかなか、入院、出産ができなく地方の開業医の協力を得ながら実施している。知り合いのつくば市在住の方も、安心して産める産科が近くになく、土浦協同病院でお世話になっているとのこと。  
石岡市も安心して出産するために、土浦協同病院までいかないといけないのか。今後の産科新設の予定など具体的な話はあるか。
- 事務局 産科については検討を進めている。出産は命に関わること。医師一人ではできないことで、最低でも3人は必要と聞いている。県としても、石岡地域のみならず、県内の体制をどうしていくか検討を進めている。市としても進めていきたい。
- 会長 私も経験があるが、本当に大変なこと。県の医療計画、医師会との調整、近隣の公営関係がありなかなか難しい。一方で、市民としては近くで出産したい。市としても非常に大きな課題として受け止めている。
- 委員 教育環境の充実について。昨年孫が生まれ、子どもが1年育休を取った。保育所に申請を出したが、どこも入るところがない。現在も復帰できずにいる。仕事の関係でほかの市町村も考えたが、石岡市か他市町村か、どちらか一方しか申請できないと言われた。  
近隣市町村と連携するなど、制度面についても検討していく必要があると思う。
- 会長 実際にどのようなになっているか。地域をまたいでの申請はできないか。
- 事務局 入所したい保育所や保育園を決めて、市に申し込みをしていただくことになる。(認定こども園は直接園に申し込み。市外の保育所や保育園は、その地域の市役所に申し込み)
- 会長 制度が変わっているかもしれない。現状でどのように利用できるか、どのように改善できるか、ただいまの意見として受け止め、検討していただきたい。

- 委員 出合いの場の提供に関して、いばらき出合いサポートセンターはものすごい実績がある。茨城新聞でも特集記事が組まれていると記憶している。
- 石岡市は出合いサポートセンターの登録料の補助について、令和3年度に予算を切っている。石岡市の実績としては低調。今後、出合いサポートセンターをどのように活用していくと考えているか。
- 事務局 日本では、結婚をするということで、子どもが生まれるという実情。統計的なデータとして、石岡市は未婚女性の割合が県平均より高い(未婚女性が多い)。一方で、有配偶者出生率は、県平均より高い(有配偶者の出生率は高い)。すなわち、石岡市においては結婚支援が重要と考えている。
- 出合いサポートセンターではAIによるマッチングも進めており、新たな出合いの場を作っている。現在女性の登録無料になっており、そういった部分も含め、石岡市も連携しながら進めたい。
- 委員 一般質問した際に、そういった答弁がされていなかった。市の職員でも独身の方が非常に多い。ぜひ成功体験を踏まえ、一つのツールとして積極的に展開して結婚に結び付けていただきたい。
- 委員 結婚後住みよい環境づくりについて、支援の具体的な内容を伺いたい。すべて重要と思うが、子育て支援の部分は非常に大事にしているイメージ。神栖市では子育て世帯の転入者が多いと聞く。神栖市で何やっているか、比較などするとよいかと思う。
- 事務局 新生活支援事業については、新たに転入する子育て世帯及び、結婚した世帯の生活支援事業として、住宅の購入費やリフォーム、賃料、引っ越し費用等を上限 30 万円で補助している。
- 委員 特色ある教育の充実について、石岡市ならではの地域性を出していくことが重要。特色のある教育として具体的にどのようなことを行っているか。
- 移住者が多い自治体は、教育関係や子育て支援が手厚いところが多い。これからの未来を担っていく世代が転入することが、自治体として重要と思う。子育て支援においても、石岡市ならではのものはあるか。
- 事務局 学校いきいきプランは、多様な経歴を有する社会人を講師とした学習活動。各学校の独自性を尊重しながら様々な事業により児童生徒の生きる力を育成する。
- 具体的には、農業体験を行ったり、福祉体験で手話の体験や車いすにのって障がいを持っている方がどのようなご苦労されているかを感じたり、国際交流で、外国人講師

による講和などがある。

また、キャリア学習もあり、先日、小桜小学校において、卒業生でキャリアコンサルタントをされている方を講師としてお招きした。そのほか救急救命講習など、幅広く学校の特色、生徒の状況などを考えながら進めている。

市民意識調査として、「石岡市で子どもを産み育てたい市民の割合」を調査している。全体の集計では 53.0%であるが、石岡市が好きな方、愛着度が高い方でのクロス集計をかけると、この数値が上がる実情がある。かなりの財源を教育関係にあてているが、学んだ子供たちが将来石岡市から出ていってしまうことが実情。

あわせて、市民意識調査では、「市内に魅力的な職場があると思う市民の割合」も調査している。こちらは、23%という結果であった。大学卒業後も石岡市に住み続けることや石岡市が好きで戻ってくる等、そういう方向性が重要と考える。

委員

地域の愛着を育てるのは戻ってきたくなることにつながる。ふるさと学習はよい。地域の遊び場の充実や、遊ぶ企画の充実、ここならではの農業体験、有機農業なども地域の特色。世界的にも有機農産物は注目されているところ。

農業が魅力ある産業としてみるには、子どものころに接する機会が少ない。そういう点から、体験事業があるのはとても良いと思うが、例えば、農業を通じて算数、理科を学ぶ等、ここからできる学びが、石岡市にはたくさんあると思う。その土地ならではの特色ある教育につながる。

総合の時間でも面白い企画をしている先生もいる。刷新するものがたくさんあって大変であるが、そういうところが前面にでてくるとよい。

委員

石岡市の有名な酒蔵や陶芸の郷などでの体験も一つ。

教育基本法が平成 18 年に改正になり、第2条第5項で、郷土を愛する心を育むということがうたわれている。他の自治体がやっているようなラインナップだけでなく、さらにもう一步踏み込んで、中身の方に入っていたらどうか。石岡市の資源であれば十分にできる。非常にポテンシャルは高い。

くるみ認定企業者数が2件であるが、市報で取り上げたりはしているか。企業のCSR、SDGsなどの面から、市報のようなパブリックな場所で取り上げられると、使い勝手が良く、インセンティブが働く。

事務局

市報やホームページ等では掲載していないが、厚労省の方では取り上げている。今後載せていきたいと思う。

委員

市のホームページで取り上げたときに、厚労省でも取り上げられていると書いてあげるとよい。企業として2つ取り上げられているとPR できる。

【基本目標4】 時代に合った地域をつくり、安心して心豊かな暮らしを守る

- 委員                   ドローンの活用について。他市町村で、ドローンの業者が移住して起業し、行政と協力して、かけ崩れの測量やハザードマップの作成等をしているところがある。  
石岡市としてドローンをどのように活用しているか。また、ドローン学校のような形で人を集めて、地域の魅力発信も面白いのかと思う。
- 事務局               石岡市のドローンの取組としては、石岡市職員で構成されているドローンチームを構成している。魅力発信するための上空からの撮影や災害発生時のドローン活用等、市全体でドローンの活用を進めている。
- 会長                   高萩市では、廃校に日立からの会社を誘致して、ドローンの学校を作っている。
- 委員                   公共交通について、市長と語ろう会でも話をした。  
八郷地区で、子は親の送迎がないと動けない。タクシー業者が AI を活用した習い事等の送迎サービスをやっている自治体がある。石岡市では、そのような活用方法は、検討材料に入っているか。  
次世代交通システムに関連して、グリーンスローモビリティの実証事業を昨年度からやっている。実証結果は、どうであったか。
- 事務局               公共交通に関して乗り合いタクシーがある。石岡市でも AI による効率的な人の輸送を導入する予定。実施結果は今後確認をしていきたい。  
グリーンスローモビリティについては、昨年度、南台と茨城台、今年度は石岡駅西側の中心市街地で行っている、低速な電気自動車である。実証結果についてはきちんと精査していきたい。例えば、利用者の利用希望価格と運営するための最低利用価格との間に差があるようである。  
先ほど、基本目標2で質問があった項目について回答する。  
令和4年9月に開催した石岡のおまつりの来客者数は約 415,000 人、令和4年度のフラワーパークの来客者は11月末までで 192,274 人となっている。

【議題3】 石岡市の人口動態の推移（資料3）

（意見なし）

## 【議題4】 地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告について（資料4）

（意見なし）

会長 事業の評価について資料のとおりとする。

## 【議題5】 令和3年度 企業版ふるさと納税の実績について（資料5）

会長 2年つづけて 1,000 万円の寄付は大きい。小学校の社会科見学で、葛飾区（博進紙器本社）へ会社見学などするのはどうか。こういう会社の人が寄附をしてくれているということ、その会社への理解、葛飾区への理解、その社員の方が石岡のおまつりなどに参加するなど、関係人口の交流につながると思う。

## 全体を通しての意見

委員 市が様々なことに取り組んでいることを、この場で知ることが多かった。周知、発信の方法などもっと検討する余地がある。先ほど話もあった、通勤通学支援も、進学の記事に学校で周知する等、力を入れて進めることがよいと思う。

委員 様々なことが行われて考えられていると感じた。博進紙器製作所はどういった流れで石岡市に寄付をしてくれているか教えていただきたい。

事務局 小幡小の近くに工場があり、その縁から寄付をさせていただいている。製紙の会社。企業版ふるさと納税は、（制度上）最大9割の税額控除ができるものであり、令和2年度から寄付をいただいている。

委員 総合戦略では八郷地区が多いのか。できれば他の地区についても、ふるさと再生を考えていただきたいと感じた。

委員 総合戦略、これだけの数をやるのは労力がある。情報発信が重要である。一方的に発信するのではなく、巻き込むような形でやれるとよい。商工会議所としても、中心市街地が発展すれば潤う。情報の共有と一緒に盛り上げていく。

私自身、教育的な観点からも、協力したいと思うので、石岡市の方々のみでなく、様々な会議なども通じて取り組んでいけたらと思う。

委員 20代～70代まで、様々な人が創業したいということで創業塾を受けている。ハードルも高いので、創業支援の補助金も含めて、様々な支援策を実施していただきたい。新たな企業が創業して、石岡に在住して、魅力発信できるようなモノづくり、自然を活かし

た野菜、飲食店等、いろんな可能性があると思う。

委員

くるみん認定の話があった。情報発信に関連して、周知方法等、我々の問題などもあるかと思う。認定を受けた企業のメリットを発信していきたい。

石岡市で認定受けている企業が2社ある。くるみん自体の周知と、認定を受けている企業の周知も含めて取り組んでいきたい。

委員

工業団地には約 4,200 人の従業員がいる。当然石岡市外から通勤している人もいる。協力をしていきたい。

男女共同参画の会議をはじめ、(ふるさと再生会議と)重複している内容もある。同じ市の会議で、横のつながりがあまり感じられないものもあるので、つながりがあれば(内容を)集中させることで、市の職員の軽減にもなるし、効率よく進められると思う。

委員

これほど活発な意見が交わされる会合はあまりない。自分自身農業を営んでいる。本日は、農業から子育てからすべてを含む会合であったが、活発な意見が交わされていたことに感嘆している。本日の忌憚のない意見を議会の中、また職員と共有していきたい。

会長

全体をとおして市では様々なことをやっている。企画課はオーバーフロー気味である。本日情報発信ということがあった。市はやっているが周知がされていないものがある。茨城県が採用したように、会計年度職員にデザインしてもらうことも、一つの手段である。様々な業務にたけているが、広報は難しい部分もある。PR含めて実施してみてもどうか。職員の業務を違う方に注力できる。

本日いただいた意見は、次の第3期の総合戦略につなげていきたいと思う。

予定されていた議題は以上となる。本日の意見は、事務局で取りまとめて、本会議からの意見として市へ提出する。それについては会長に一任させていただくことでよいか。

(異議なし)

草間会長

以上で会議を終了とする。